

第3回 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進民間会議

【概要】

日 時：平成25年1月21日（月） 11時10分～12時00分

場 所：プリムローズ大阪2階 羽衣

出席者：13名（うち2名が代理出席）

議 題：議題1 「(仮称)百舌鳥・古市古墳群を活用した地域活性化ビジョン（素案）」について

議題2 連携事業の報告及び今後の展開について

議題3 その他

【議事概要】

➤出席委員の紹介

➤会議の公開について報告

➤議題1、2について資料に沿って事務局から説明。

◆委員

- ・一番大事なことは、地元としてどんなふうに訪れてほしいのか、例えば仁徳陵だけでなく他に何を見てもらうのかなどを決めていくことだと思う。
- ・次に、「他の世界遺産地域との連携」ということであれば、すでに私どもが関西の世界遺産のネットワークをつくっているのだから、ぜひ活用してもらえたらと思う。
- ・最後に、PRにおいても、例えば、(羽曳野市出身の)ダルビッシュ有投手をポスターに採用するなど検討してはどうか。

◆委員長

- ・ビジョンでは「古墳学習」の実施について触れているが、古墳は御陵なので、やはり「学び」の視点は非常に大事。
- ・御陵を訪れると、その周辺には独特の静寂があって、尊厳を感じるような空間がある。観光というだけでなく、敬虔な気持ちをもってお墓を参拝するという観点が必要。資産の周辺に立ち入ると空気感が切り変わって、陵墓であるということを感じることができるという環境づくりが大事。

◆委員

- ・観光という視点でいえば、食べ物は切り離せない。堺といえば、千利休に代表されるお茶の文化や和菓子があり、非常に人気が高く、特に女性に受けるのではないかなと思う。やはりこの地域を訪れたときに、そこで味わう特産品や、茶室などの環境、「わびさび」の世界などが、委員長のいう「静」にもつながっていくと思うので、一つのアイテムとしてお茶の文化をクローズアップしてもよいのではないかな。

◆委員長

- ・最近は若い世代が「パワースポット」として世界中の歴史的な場所に出かけていて、何か気をもraitたいと考えている方が増えているかと思う。

◆委員

- ・私どもでは「大阪検定」をやっている。「ボランティアガイドの育成・充実」のところで、古墳の検定みたいなものとガイド機能を結びつけていけないか。例えば、伊勢の方では、検定合格者が有料で案内をしていて非常に活躍されている。
- ・また、意見が分かれるかもしれないが、「地域の特産品や観光商品の開発」という意味で、ゆるキャラについて議論してもよいかと思う。毎年、ゆるキャラのNO.1を決めたりしているが、ちょっとしたことで地域が認知される。関心のない人への取組みとして検討してもよいのではないか。

◆委員

- ・堺では、現在200人近い観光ボランティアガイドがおり、大仙公園の観光案内所など市内3か所で定点ガイドを実施している。
- ・現在も独自で歴史などの研修が行われているが、今後、質量ともに拡大していきたいと思うし、案内インフォメーションの充実も不可欠だと思う。
- ・お茶と和菓子があったが、今年12月に市川海老蔵さん主演で「利休にたずねよ」が上映されるが、これに関連した取組みの中で堺への関心を古墳群につなげていければよいと思う。

◆委員

- ・鉄道会社の使命は、お客様に足を運んでいただくことなので、世界遺産に足を運んでいただくような方法を考えないといけないと思う。
- ・現在、堺と古市間のアクセスに課題があると思うが、近鉄と南海で連携して百舌鳥・古市古墳群を回るようなチケットができれば面白いと思う。こういった商品ができ、他の私鉄さんでも販売されれば、関西全域から来てもらうことができる。また、車内や駅のポスターで商品がPRされるので、かなり広い地域で知っていただくことができると思う。
- ・既に高野山と吉野という世界遺産があり、(百舌鳥・古市古墳群との)アクセスがかなり良いので連携したチケットを作ってもおもしろいかなと思う。JRの路線を含めると2重3重で世界遺産を結ぶラインがあるので、連携して商品化すればより多くの人に来ていただけるのではないかと思う。

◆委員

- ・私どもも交通事業者なので、アクセス、告知面でなんらかのご協力ができるのかなと思う。切符に関しては今でも既に他社さんと組んだ1日乗り放題の切符があるが、世界遺産を結ぶような打ち出し方はしてきていない。今後、そういった視点で出していけば、既存の商品を使ってPRができるのではないかと思う。

- ・ボランティアガイドの話ですが、使い方がよく分からないというお客様がいらっしゃるの、どこにどのように頼んだらよいか、どれくらいの料金や時間で行われているのかなど、ホームページ等での案内や、旅行会社への情報発信などが進めば、すでにいるボランティアガイドさんも活躍できると思う。

◆委員

- ・観光・誘客の立場から話をさせていただく。すでに世界遺産となっている事例を踏まえると、無防備にのぼりが立ったり、空き地が駐車場になったりしないよう、登録後のまちづくりに関するガイドラインのようなものを作っておく必要があるのではないか。
- ・「登録すれば必ず人がやってくる。それから対応します」ではなくて、活動していること自体を伝えることで人を呼び込んでいくというのが必要。
- ・ただ、古墳を見に来てもらうというのではなく、「古墳を守っている、維持している地域を体感しにきてください」というようなことが必要なのではないか。そのために、地域住民、地域との共生・協働ということで、地域の事業者という観点も入れてはどうか。
- ・また、若年層への取組みの部分で、例えば、羽曳野市のヤマトタケル伝説など、古墳や地域の歴史にまつわる伝説等を洗い直してみてもどうか。
- ・一番肝心なのは、新たに百舌鳥・古市古墳群ができるのではないので、現状を認識したうえで登録後の絵を描いていくことかと思う。

◆委員長

- ・海外のある遺跡では、入場料を取ってさまざまな観光集客のイベントを行い、その収益を遺跡の保全にうまく活用している。(登録されたとしても)当然、収益や活力の出るエリア、出ないエリアが出てくると思うので、地域内で何らかの収益等を還元していくことを考えないといけないと思う。
- ・多くの方が来られたら、それによって環境が良くなるとか、市民が抱える課題解決につながるとか、そういったしくみも考えるべきではないか。
- ・本ビジョンに抜けているのが、滞在・宿泊の考え方。堺や羽曳野・藤井寺でどこに泊まっていたか、大阪に泊まっていたかということを考えておくべき。

◆招聘委員

- ・宿泊の話が出たので、それに繋がることとして、誰に来てもらいたいのか、もう少しターゲットを明確にする必要がある。国内からでも、東京の人なのか北海道の人なのか、年齢層はどうか。ターゲットに応じてまちの楽しみ方が違うと思う。ビジョンとしてはこれで結構かと思うが、今後、もう少しその辺りを詰めていく必要があると思う。
- ・財源の話も委員長のおっしゃったとおり。鉄道事業者の方々が非常にコミットしていただいているのが他の地域にはない良いところだと思うので、その辺も活かされれば良いと思う。
- ・ボランティアガイドの質を高めるようなしくみ、例えば、ホスピタリティ検定などが出てきて、一定の資格を持ったガイドや、「日本や世界の歴史の中で百舌鳥・古市古墳群がどう位置づけられているか」というところまで視野を広げて説明できるガイドが出てくればよい。

- ・ガイドの育成はあまりお金をかけずにできることなので、そういうところに財源を使っただけのも一つの手かと思う。

◆委員長

- ・古墳学習だと歴史ばかり教えられるので、観光の視点を入れてはどうかと思う。各地から訪れる方とどう交流するのか、外国人の方をどうもてなすのかというのを含めて学習していかないといけない。全く知識のない方にもどのように地域のことを伝えていくかというのが非常に大事なことだと思う。